ぶつかる闘志

芦高新聞

発行所
県立芦屋高等学校
出版部
兵庫県芦屋市宮川町6-3
TEL 0797－32－2325

定期戦特集

▼五月二日、例年通り西宮市民グラウンドに於て▲
▼第二十五回対県西定期戦が行われた。▲
▼どの試合も白熱した試合展開となり、応援する側▲
▼にも選手達の気迫が伝わる程だった。両校共、全▲
▼力を尽くして戦ったが、昨年に引き続き芦高の圧▲
▼勝で幕を閉じた。▲

バレーボール　ストレート勝ち

バレーボール女子は、十二時から芦高のサーブで開始された。

第一セットは、芦高の猛攻が県西のミスを誘い、前半芦高のリードで試合が展開された。後半、県西が反撃に入ったが十五対十で芦高が逃げきった。

第二セットは、芦高のサーブがなかなか決まらず、県西に先取点を取られた。しかし、芦高のアタックが決まり出し、1点を争う白熱したゲームとなった。後半に入り、県西がミスを重ね、芦高が逆転した。その後、芦高が県西を引き離したまま十五対九で終了し、セットカウント二対〇のストレートで芦高が勝利を手にした。

＝芦高顧問談＝

相手が地区のリーグでは上位なので、胸を借りるつもりでやった。練習の成果が出たのか、サーブがいつもより良く決まったことが勝因だと思う。

バレーボール男子の試合は、午後一時より行われた。

県西のサーブで試合が始まったが、早速芦高はクイック攻撃を決め、サーブ権を奪った。その後も好調で芦高が5点取ったところで県西の作戦タイム、試合は一方的な芦高のペース。前衛が特に活躍していた。一方県西チームは、サーブミス、タッチネット、アタックミスなどが目立った。芦高が11点とったところで県西また作戦タイム。試合は終始芦高が押しぎみで、結局芦高はこのセットを、15対6でものにした。

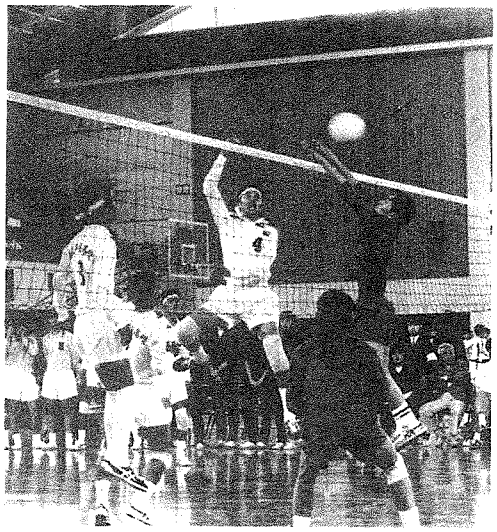
第二セットは所々芦高側に細かいミスがあった。中盤で少々てまどったが、このセットも終始押しぎみでこの試合、15対9で県西を下した。

＝芦高顧問談＝

〇今日の試合は7～8割がた出来でした。みんなよく頑張ってくれた。相手チームはなかなか元気の良いチームでした。

＝芦高部長談＝

いつもの調子が出せなかった。



Aクイックでブロックを破る

ラグビー　勢いにのる攻撃

今年は四月二十八日、ラグビーの試合が本校グラウンドで行われた。

天気は朝からすぐれなかったが、午後一時十二分開会式が始まった。

そして選手宣誓の後、二時二十一分芦高のキックオフで試合が開始された。

前半戦、開始後、すぐ敵インゴール前になだれ込み、開始五分トライ・コンバートを共に決め、先制点を入れた。その後も芦高の押せ押せムードで、開始十一分トライを決め、点差を広げた。しかし、県西もハーフタイム寸前、スクラムから攻め込んだが、そのまま芦高の十点リードで、ハーフタイムに入った。

後半戦も芦高のキックオフで始まり、しばらく押しつ押されつの状態が続いたが、後半約十分、県西インゴール前の集団から一早く芦高が飛び出し、速攻でトライを決めた。その後も約十五分、芦高は敵中央を突破し、トライ・コンバートを決めた。そして二十分にだめ押しのトライを決め、コンバートははずしたものの、芦高が大差で勝利を収めた。

＝芦高顧問談＝

今日の試合は、本当にFW陣が良く頑張ってくれたと思う。向こうのチームもなかなか頑張っていた。目標は、次の大会で優勝すること。それのみだ。

＝芦高主将談＝

自己採点は百点満点の出来だ。相手校も良くやっていたが、何といってもこちらの調子が良かったので、今年は勝利を収めることが出来た。国体・全国大会進出が今年の抱負だ。

硬庭

小雨も降り、予定開始時刻から多少遅れたが硬式庭球部の試合が五面のコートを使って行われた。男女共シングルスで始められた。コート状態が悪くプレーにもミスが目立ったが、ダブルスが始まる頃にはコートも乾いていた。

試合内容は、接戦あり圧勝ありなどでかなり見ごたえのあるプレーを観客に見せていた。

結果は、男子が十一対四女子が十一対二で芦高の圧勝であった。

＝芦高男子部長談＝

相手チームは、二年が強いので手こずらされた。今日は、調子が良かったので勝てた。二年は、大会に向けてがんばって欲しい。

＝芦高女子部長談＝

相手チームは、コースに決まらなかったので楽に出来たが、力を出しきれなかった。一・二年は、今日見た事を来年につなげていってほしい。

陸上

午前九時三十分に始まる予定であった陸上の試合は悪天候の為、約三十分遅れて開始された。折からの雨で両校とも応援者の数が少なく、寂しい幕開けとなった。

男子では、個人種目は惜しくも敗れてしまったが、最後の四百メートルリレーでは、接戦の末ラスト一周で県西を振り切り、ゴールインした。

女子はどの種目も圧到的な差をつけ、県西を全く寄せつけない試合展開であった。四百メートルリレーでもその調子は衰えず、最後まで、勝利の試合を見せてくれた。

＝芦高部長談＝

最初は時間が無くて、十分アップが出来なかった。

県西は長距離が強いと思う。

来年はとにかくどんどん練習をして、パワーアップを図り、妥協しない様にして欲しい。

体操

例年通り、体育館では初めて体操が行われた。得点がない上、去年の様に床運動や段違い平行棒がなくマット運動だけとあって、あまり盛り上がりのないまま始められた。

それぞれ基礎的な内容から緊張した様子もなく、落ち着いた演技が進められた。中盤に入り、男女共素晴らしい演技が次々に行われると、会場からも拍手が起こり、成功のうちに終わった。

＝芦高部長談＝

今日は県西も芦高もマット慣れしておらず、やや不調の様子だった。今は、試合に向けて仕上げの時期なので、けがのないようがんばっていきたい。

剣道　勝負あり

去年、出場停止だった剣道の試合は、今年は予定通りに、武道場に於いて行われた。剣道の人気はとてもすごく、開始前には大勢の観客で混み合っていた。

試合の前から、芦高の方は、笑いもでる程、とてもリラックスした様子で、余裕の表情さえ伺えた。

試合はまず、代表の五人組で行われた。この試合は圧倒的に芦高が強く、五連勝であった。芦高側の応援団からは、盛んに拍手が起った。

試合はいよいよ本格的に盛り上がり、最後の団体戦となった。最初の試合で確かめたように、芦高の方が完全に有利と思われた。

試合が始まった。やはり芦高は強く、面・胴・小手と、次々に県西を倒した。

しかし、県西もそのままでは引き下がらず、中盤から後半にかけて粘り勝ちするようになった。しかし、芦高の勢いは止められず、五対〇で芦高の勝利となり、結局、県西には全勝した。

＝芦高指導の先生談＝

相手に勝っていると思うと負ける。相手を重んじる心が勝利を導いたのだと思う。最後まで気を抜かないように。

＝芦高主将談＝

これからの目標は、リーグ戦で三部に昇格すること。

県でベスト16に入ること。

そして近畿大会を目指して頑張ります

軟庭　後半の接戦

女子軟式庭球部の試合の観衆は、硬式と比べると若干減ってしまっていた。選手達は、普段と変わらない様子で練習を続けていた。

ミーティングも終わり、第一セットが開始された。第一セットのサーブは県西で、先取点を取られたものの、その後、県西のミスも相まって、次々と芦高が得点し、第一セット終了。芦高が取った。その後の第二セットでは、取りつ取られつの試合でデュースに持ち込み、結局、芦高の勝利に終った。

続く第三セット、第四セットも芦高が取った。第二試合では第一セット、先取点は県西だったが、接戦の末にデュースを取って芦高の勝利。第二セット前半は県西が順調に得点したが、芦高が勝ち、第三、第四セットも勝利を収めた。続く第三試合。第一セットは、芦高が先取点を取ったがそのまま押さえ込まれ、県西の逆点勝ちで終わった。それからの第二セットは、たび重なるデュースを取って芦高が勝ったが、県西に第三セットを取られた。しかし芦高も第四セットを奪い取ったものの、勢いに乗った県西は、第五、第六セットを続けて取った所で全試合終了。第三試合は県西のものとなったが、総計では二対一で芦高が勝戦した。

＝芦高女子部長談＝

これからも、芦高の品位を考えて、試合に臨んで欲しい。さすが県西だけあってすごかった。でも、今日は冬やってきた成果だと思う。特に、新人の二年生である二人は、マナーも良く将来が楽しみだ。

裏表独語

先々月、芦高暦に残る「新校旗贈呈式」が行われた。新しい校旗は、ファイア・レッドの地色に、ライトグリーンの葦の葉と金文字の「高」マークと学校名とを浮かび上がらせており、生地に溢れる躍動感を校章の凜然たる気品で統括している。この様な、立派な校旗をもらった私達であるが、果たしてそれにあった行動をしているかどうかを考えてみると、素直にうなづけない面がある様だ。例えば校内の美化に対してあまりにも関心がなさすぎるのではないだろうか。わたしは新校旗にふさわしい環境がつくられていないと思う…というほど私も偉いことは言えないけれど、「新校旗贈呈式」というめでたい儀式に参加できて私は光栄だ。（…他の芦高生はどう思っているのかはわからないけど）とにかく私はラッキーだった。

話は変わるが毎年の様に各クラスからほとんど強制的に？定期戦実行委員が選ばれてくる。初めはおどおどしていた一年生も定期戦の応援では何ともたくましく又たのもしく見えるものである。それというのも当日までの厳しい練習の成果である。人の為に声をからし汗を流す姿はまさに青春ドラマそのものである。その姿を見ていると思わず胸が熱くなってしまう私である。もし私が男ならば一度は、経験してみたい世界だと思う。「縁の下の力持ち」という言葉がまさにピッタリな応援団。いつまでも影の力となって芦高を支えていって欲しいものだ。

校旗は芦高の光。そして応援団は影。どちらも芦高に欠かせない大切なものである。

（ショウコ♥マサオ）

バスケット

激戦の男子、圧勝の女子

十一時五分より体育館で行われた女子バスケットボールの試合は、熱気をコートに残して勝利を収めた。

最初、数分も経たない内に県西のファウルにより、芦高はフリースローで先取点に恵まれた。この先取点がまるで芦高の勝利を暗示するかの様に、次々とシュートがきまった。観客の方は、芦高が県西との点数差を広げていくにつれ、応援にも力が入って来た。

前半は試合展開がスムーズに行き、三十五対十二で芦高がリードを取った。

後半に入り、両校共にファウルが目立った。波に乗った県西のシュートがきまり始めたのに対し、芦高のミスが多くなり、点差が縮まった。結局、県西の力が発揮出来ないまま、五十五対三十五で芦高が圧勝した。

＝芦高部長談＝

後半のプレーがだらしなくて情けない。県西のチームは後半に乗って来てシュートが入りだし、前半からこの調子だったらもっと苦戦していただろう。

男子の試合は十二時四十三分より始まった。

前半、開始早々芦高は巧みなパスで、続けざまに二ゴール先取した。しかしその後は県西も盛り返し、シーソーゲームとなった。

芦高は巧みなプレーを見せ優勢に見えたが、一瞬の隙にボールを奪われ、そのまま得点されてしまう、というケースが多く、芦高は苦戦していた様だ。白熱したまま芦高三十一点、県西二十七点で前半は終了した。

後半は県西が続けざまに二ゴール先取し同点としたが、すぐに芦高もゴールし、後半も荒れ模様の白熱したゲームが展開された。

終盤は凄まじい攻防。どちらもなかなか得点につながらず、お互い疲れている様だった。

結局、芦高五十四対県西四十八の僅少差で、芦高は辛くも勝利を収めた。

＝芦高監督談＝

公式戦が続き、調子が悪かったにも関わらず、チームワークで勝つ事が出来た。目標は、「目先一勝」を積み重ねること。女子についても同じだ。

柔道

県西対芦高の柔道対抗試合が、予定より二十分遅れて開始された。

先鋒は先ず藤本で、両者共、緊張はほぐれず、試合は長引き、時間切れかと思われたが、ようやく一本を取ることができ、芦高の勝ち点となった。

続いて次鋒の中田は、寝技が多く、これも又長引く試合展開となり、結局時間切れで、引き分けに終わった。

三人目の主将鈴木は、今までの試合とはうって変わり、速攻で寝技を決め、三十秒続かせ一本を取った。

四人目の山田は積極的な態度で技をかけ、早くも一本を取り、芦高の勝ち点三となった。

大将の橋本は想像以上の苦戦となり、技をしかけるが一向に決まらず、相手の締め技により、橋本は破れるかとも思われたが、結局時間切れの引き分けで、三一一の芦高の勝利となった。

＝芦高主将談＝

練習での成果が見られずに力が出ていなかったので、もっと気合いを入れて欲しかった。応援してくれた人に感謝します。

卓球

予定より少し遅れて、午前九時五〇分に始まった卓球は、男女共白熱した試合展開となった。

男子は、今回去年より二試合多く、ダブルス三試合・シングル八試合、合計十一試合が行われた。

ダブルスの試合は、最初からデュースといった接戦で、手に汗握る好試合となった。途中、スマッシュがいま一つ決まらず、また危い面もあったが、結局二対一で芦高の勝利となった。

続いてシングルの試合では、ダブルスの様にはいかずミスが目立った。芦高も頑張ったが、最終的には八対三で県西の勝利となった。

女子の試合はダブルス三試合、シングル六試合が行われた。ダブルスは、始めなかなかレシーブが決まらず、やや押され気味だったが、ゲームも中盤になると選手もペースに乗ってきた。しかし、芦高の追いあげもむなしく、ダブルスは県西に取られた。

続く、シングルは両校とも実力は五分五分のようだったが、芦高のミスが多く点差は大きく開いていった。最終試合は、全部員が見守る中、ラケットで自分の卵をたたく音が響いていた。

結果は、三対六で県西の勝利と終わった。

＝県西男子部長談＝

時間がかかりすぎて、迷惑をかけてしまった。また良い試合がしたい。

＝県西女子部長談＝

始め県西の方が負けるかと思ったけど、ダブルスの試合で二つ勝てたので、シングルの試合がとても気が楽に出来た。最後の試合が長引いたので緊張した。

野球

初回で決まる

去る四月二十一日、定期戦前哨戦として硬式野球部の試合が芦高グラウンドに於いて行われた。

一回表、先攻の県西は二死後四球で出塁した走者が二盗を決めたが、後が続かず得点には結び付かなかった。その裏、芦高は一死の後二番打者が右中間に三塁打を放ち、続く三番がスクイズを決め先取点を取った。その後、県西のミスもあってその裏、芦高はこの回五点を奪った。

三回、五点を追う県西は死球の打者を手掛かりに一点を返した。その後もヒットが続き一死満塁となったが、このチャンスを生かす事は出来なかった。しかし、四回裏二死の後レフトオーバーの二塁打を含む三連打で二点を挙げた。

その後、四・五回は両校共得点が入らなかったが、六回裏にはランニングホームランで一点、更に八回裏レフトが打球を後逸している間に、打者が二塁に進んだ。そして、二死の後セカンドが打球を後逸する間に二塁打者がホームに返り一点を挙げた。しかし、最終回県西は無死から悪送球により一点を取り、レフト前の二塁打で反撃開始かと思われたがここまで。県西は健闘もむなしく、結局九対二で芦高が圧勝した。

＝芦高監督談＝

よくやったと思う。相手チームの部員数が少ないとはいえ、気を緩められなかった。

DARK HORSE

響け、応援歌！

〝応援団〟とは

今年も運動部の健闘によって芦高が大差で勝利を収めた。この勝利の裏には、応援団リーダー部と一年生の定期戦実行委員の活躍がある。

定期戦実行委員は各クラスから男子三名が選出される。選出は立候補者優先だが、立候補がない場合は運動部、書記外局、特に今年は練習開始一週間後に前哨戦（野球）が引き等で選出される。選出された実行委員は本戦当日までリーダー部と行動を共にする。彼等に課せられた練習内容はリーダー部と同様で、かなりハードである。発声に始まり、芦高独得の技を体得しなければならない。特に今年は練習開始一週間後に前哨戦（野球）が控えていたので特に厳しいものであっただろう。

さて、試合当日の彼等はどんなものであったか。そう、我々も応援団員であるという事をだ。応援練習の時は、リーダー部員の呼びかけにも我々は最後まで声を出そうとしなかったし、前哨戦は芦高で行われたが見に来ていた生徒は非常に少なかった。リーダー部や実行委員の応援がどんなに素晴しいものであっても、彼等だけが応援団員ではない。中心は我々だ。改めて認識する必要がある。

忘れてはいないだろうか。我々は応援団員で応援していた。こんな彼等を見ていると我々もすがすがしく、力強く感じてくる。

しかし、我々は何かを勝利に導くために精一杯応援していた。

我々をリードするために彼等は精一杯の力を出していた。芦高運動部を忘れてはいないだろうか。

サッカー

息詰まる接戦

曇天の中、予定通り正午からグラウンドで県西のキックオフで始まった。

前半の出だしは県西がボールを保持したが、芦高のキーパーがボールを押さえてからは芦高のペースとなり、シュートしたが県西のキーパーに押さえられた。そのような調子で試合が流れたが、中盤、芦高が素早いパスをつないでシュートを決めた。更に芦高はシュートを決めようと数本試みたが、どれも失敗に終わった。終盤、調子づいている芦高のバックスの隙をついて、県西がシュートを決め同点となった。前半終了近く、県西のコーナーキックであわやシュートかと思われたが、チャンスを掴めずそのまま前半を終了した。

後半、芦高が調子を掴みスローインからパスをつないでシュートを決めた。その後、両チーム共得点を掴めず試合が流れ、また、ミスや反則が目立つようになった。終盤、芦高が打った数本のシュートは大きすぎてゴールを外れたり、キーパーにキャッチされ、どれも不成功であった。県西も直接フリーキックのチャンスを生かし、あわや同点とそれ、そのまま終了となった。

後半の始めのシュートが決勝点となって、芦高が二対一で県西を破り勝利を収めた。

＝芦高監督談＝

選手達はもう一つ調子が出ない様であったが、これから大事な試合が幾つも控えているのでケガに注意してもらった。これからも楽しくのびのびと、精一杯力を出してやっていってもらいたい。

敵陣深く蹴り込め！

水泳

去る四月二十八日、本校プールに於いて第二十五回水泳前哨戦が行われた。

例年にない寒波で、水温は異常に低く、泳げる状態ではなかった。その為、両校共々タイムは振るわず、低調な試合展開となった。

四〇〇メートルメドレーリレーを幕開けに、一〇〇メートル平泳、背泳、自由型と、順調な試合運びではあったが、県西には全国レベルの選手が二、三人所属していたこともあり、成績の方は一部の活躍が目立ったばかりで、ほとんどの種目で県西にリードを許したままであった。しかし、レベルの高い県西に立ち向かう芦高の選手達の健闘も素晴らしいものであった。

＝県西キャプテン談＝

芦高のレベルは前回より上がっている様で、差は縮まってきているみたい。県大会に出て、良い成績を収める事が目標。芦高もがんばって下さい。

軟式庭球部男子及び剣道女子について

今回の定期戦では、軟式庭球部男子と剣道部女子の試合は行われなかった。これはどちらも県西側の人数不足によるものであった。来年こそは行われるようにしてもらいたいものだ。

〈総合得点〉

芦高13－4県西

種目		芦高	県西	種目		芦高	県西
野球		⑨	2	バレー	男	②	0
					女	②	0
サッカー		②	1	バスケット	男	㊹	48
					女	㊺	35
ラグビー		㉔	0	卓球	男	3	8
					女	3	6
柔道		③	1	軟庭	男	/	/
					女	②	1
水泳		39	69	硬庭	男	⑪	4
					女	⑪	2
陸上	男	26	33	剣道	男	⑤	0
	女	⑱	11		女	/	/

（○は芦高の勝利種目）

編集後記

今年も六月に入り、やっと定期戦の報告が出来る様になりました。例年の如く遅ればせながらの発行となり、記事の内容も既に薄れた記憶となってしまった事ばかりだとは思いますが、前号制作との並行作業であった為、致し方ない事と御了承下さいます様お願い申し上げます。

ところで我が出版部は今年の夏も合宿を予定しています。これに伴い「合宿特集号」の新聞も出す予定です。統率力のない二年生が多くの一年生を率いての合宿なのでが多少の不安はあるのですが、一つでも多くの事が得られれば良いと思っています。

今回の新聞さえも満足して頂けるかどうか不安なのですが、今後もより一層の努力を重ね、よりよい新聞作りに励みたいと思います。

最後になりましたが、御協力下さいました方々に深く御礼申し上げます。

（第三十八代出版部一同）